

まちづくり交付金を活用した主な事業

道路整備事業：今小路通りの歩道を拡幅し、歩きやすくしました



整備前



整備後

道路整備事業：小町通りの景観に配慮し、電線類を地中化しました



整備前



整備後（イメージ）

道路整備事業：小町踏切の歩道の拡幅と段差の解消を行いました



整備前



整備後

高質空間形成施設整備事業：老朽化した公共トイレを改修し、バリアフリー対応トイレとしました



高次都市施設整備事業：鎌倉駅東口駅構内に観光案内所を設置しました



整備後

○まちづくり交付金を活用した事業

- ・道路整備事業（市道 001-000 号線(小町大路)・市道 002-000 号線(海岸通り)・市道 008-000 号線(今小路通り)・市道 027-000 号線(市役所通り)・市道 032-000 号線(小町通り)・市道 032-029 号線(小町踏切)・市道 001-052 号線他 2 路線)
- ・公園整備事業（材木座四丁目街区公園）
- ・地域生活基盤施設整備事業（観光案内サイン（140 カ所））
- ・高質空間形成施設整備事業（市道 027-010 号線・市道 032-000 号線(小町通り)・市道 205-091 号線・鎌倉駅東口駅前広場・公共トイレ(8 カ所)）
- ・高次都市施設整備事業（鎌倉駅東口駅構内観光案内所）
- ・バリアフリー環境整備促進事業（鎌倉中央図書館）
- ・地域創造支援事業（住居表示ユニバーサルデザイン化事業・雨水管渠築造事業・亀ヶ谷切通し保存修景整備事業・自転車等駐輪対策事業・御成小学校冠木門保全事業）
- ・事業活用調査（鎌倉駅西口周辺地区整備推進計画策定事業・景観地区指定調査検討事業・事業効果分析業務）
- ・まちづくり活動推進事業（市民参画まちづくり活動支援事業）

○計画段階に設定したまちづくりの目標

大目標

豊かな歴史的遺産と身近な山並み、青い海などの良好な自然環境を活かし、市民・来訪者が快適に共存できる古都鎌倉の顔を市民との協働により再創造する。

目標 1

世界遺産登録を目指す歴史・文化都市鎌倉の玄関口にふさわしい景観に配慮した、質の高い駅周辺都市空間の再整備を図る。

目標 2

駅から主要観光スポット・公共施設までの危険箇所の改善、バリアフリー化を実施し、市民・来訪者が安全で安心して歩ける歩行者空間の改善を図る。

目標 3

駅周辺、主要観光スポット周辺において、観光客をはじめとした来訪者を温かくもてなし、市民と調和のとれた関係を築くことが出来る快適な環境整備を図る。

○数値目標の達成状況

《指標1》安全な歩行者空間満足度

・毎年実施している「市民意識調査」における「安全な歩行者空間」に関する問いに対する鎌倉地域在住者の調査（無作為抽出3,000人、郵送配布・回収による）を対象として計測しました。

・16%（H16従前値）→40%（H21目標値）<22.8人（H20評価値）

→当初設定した目標数値が高かったため、目標達成は難しいですが、満足度の実績数値は年々目標に向かって推移しています。

《指標2》ミニバス利用者移動時間

・鎌倉駅西口改札から市道027-000号線を徒歩でバス停鎌倉市役所前まで移動し、そこからバスに乗り終点のバス停鎌倉中央公園入口に至る時間の合計（実測とバス事業者からのヒアリング）を計測しました。

・20分（H16従前値）→16分（H21目標値）<20分（H20評価値）

→事業期間内での地権者との合意に至らず、JR鎌倉駅西口駅前広場の整備ができなかったため、駅前広場に乗車用のバス停を設置できず、目標達成とはなりませんでした。

《指標3》観光客数

・毎年実施している「神奈川県入込み観光客数調査」（年4回の定点調査、有料施設への調査などを組み合わせて推計）により計測しました。

・1,768万人（H15従前値）→2,000万人（H21目標値）<1,934万人（H20評価値）

→当初設定した目標数値が高かったため、目標達成は難しいですが、実績数値は年々増加しており、1年以内の目標達成の可能性が高いです。

《その他指標1》観光振興に取り組む姿勢の満足度

・63.7%（平成15年度参考値）→75.1%（H21見込値）

→観光客へのホスピタリティを向上させる取り組みは、観光地であり住宅地である鎌倉に住む市民の生活環境向上にもつながってきます。したがって、観光振興に取り組む姿勢を評価する市民の意識も向上してきているので、事業効果は高いと判断できます。

《その他指標2》道路交通環境に関する満足度

・7.2%（平成15年度参考値）→12.6%（H21見込値）

→市民意識調査項目の一つに「道路交通環境」に関する取り組みに関する項目があります。この項目は、安全安心歩行エリアの整備など、事業の成果を直接的に判断できる指標であり、満足度の数値も向上していることから、事業効果は高いと判断できます。